

平成23年度

事業報告書

(第5期事業年度)



自 平成23年4月 1日

至 平成24年3月31日

北海道公立大学法人 札幌医科大学

目 次

1 大学の概要

(1) 大学名	1
(2) 所在地	1
(3) 役員の状況	1
(4) 学部等の構成	1
① 学部等	1
② 大学院	1
③ 附属病院	2
④ その他の附属施設等	2
(5) 学生数及び教職員数	2
(6) 沿革	2
(7) 建学の精神	3
(8) 理念	3
(9) 行動規範	3
(10) 中期目標（基本目標）	3

2 業務の実績

(1) 総括	4
(2) 計画の主な実績	4
第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	4
第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置	7
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	7
第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	7
第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	7
第6 予算、収支計画及び資金計画	8
第7 短期借入金の状況	8
第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	8
第9 剰余金の使途	8
第10 その他	9
別紙	10

北海道公立大学法人札幌医科大学事業報告書

1 大学の概要

(1) 大学名

北海道公立大学法人札幌医科大学

(2) 所在地

北海道札幌市中央区南1条西17丁目291番地85

(3) 役員の状況

役 職	氏 名
理 事 長 (学長)	島 本 和 明
副理事長	平 山 和 則
理 事	黒 木 田 夫
理 事	乾 公 美
理 事	平 田 公 一
理 事	白 崎 賢 治
監 事	旗 本 道 男
監 事	渡 辺 英 一

(4) 学部等の構成

① 学部等

医学部 医学科
保健医療学部 看護学科
理学療法学科
作業療法学科
医療人育成センター

② 大学院

医学研究科 医科学専攻 (修士課程)
地域医療人間総合医学専攻 (博士課程)
分子・器官制御医学専攻 (博士課程)
情報伝達制御医学専攻 (博士課程)
保健医療学研究科 看護学専攻 (博士課程前期・後期)
理学療法学・作業療法学専攻 (博士課程前期・後期)

③ 助産学専攻科

④ 附属病院（平成24年4月1日現在）

診療科数	25 診療科
病床数	938 床
室数	273 室

⑤ その他の附属施設等

附属総合情報センター、附属産学・地域連携センター、
医学部附属教育研究機器センター、医学部附属動物実験施設部、
医学部附属フロンティア医学研究所

(5) 学生数及び教職員数（平成24年4月1日現在）

学部学生	1,012 人
大学院生	296 人
研究生	149 人
訪問研究員	82 人
留学生	8 人
教員数	386 人
役職員数	1,138 人

(6) 沿革

本学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に、戦後の新制医科大学第一号の医学部医学科の単科大学として開学した。

その後、平成5年には札幌医科大学衛生短期大学部（昭和58年開学）を発展的に改組することにより、保健医療学部として開設し、本道で唯一の公立医科系総合大学として発展してきた。

この間、医師をはじめとする多くの医療人を育成するとともに、先進医学・保健医療学の研究や高度先進医療の提供、さらには地域への医師派遣などを通じて、北海道の医療・保健・福祉の向上に大きく貢献してきた。

平成19年4月には新たな理念及び行動規範を掲げ、理事長のリーダーシップのもと最高レベルの医科大学を目指して、北海道公立大学法人札幌医科大学として新たに出発した。

平成20年10月には、新たな教育組織として、教養教育と専門教育（医学及び保健医療学）の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成することを目的に、医療人育成センターを開設した。

また、平成24年4月には、創造性に富み人間性豊かな助産師の育成を行い、北海道の母子保健の発展と充実に貢献することを目的に助産学専攻科を開設した。

(7) 建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

(8) 理念

- 最高レベルの医科大学を目指します
- ・人間性豊かな医療人の育成に努めます
 - ・道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
 - ・国際的・先端的な研究を進めます

(9) 行動規範

1. 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
2. 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
3. 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
4. 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
5. 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
6. 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
7. 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

(10) 中期目標（基本目標）

- 1 創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献する。
- 2 進取の精神の下、世界水準の研究を推進し、国際的な研究拠点の形成を目指す。
- 3 高度先進医療の開発・提供を行い、本道の基幹病院としての役割を果たす。
- 4 健康づくり・疾病予防の視点に立った総合的な地域医療支援ネットワークの形成に努める。
- 5 最新の研究・医療に関する情報の地域社会への提供やより一層の産学官連携を進め、研究成果の社会還元に努める。
- 6 国際交流を推進し、国際的医療・保健の発展に寄与する。

2 業務の実績

(1) 総括

本学は、公立大学法人として発足後、平成23年度で5年目を迎え、中期計画に基づき、順調に運営している中、現中期計画が残り1年となることから、取組が遅れている項目・課題を中心に積極的に取組を進めた。

教育の分野における具体的な取組については、より高い倫理観を持ち人間性豊かな社会に貢献できる医療人を育成するため、学習内容の充実と学習効果の向上を目的として、平成24年度以降入学者用の新カリキュラムを策定した。

研究の分野においては、引き続きトランスレーショナルリサーチ事業の推進に取り組み、特に脳梗塞研究及び癌ワクチン研究については、他大学・他機関との連携を強め、平成24年度上半期での治験開始に向けて、大きく前進をさせた。

附属病院においては、「放射線科」を最新機器を用いた治療を行う「放射線治療科」と最新の画像診断機器等による診断に特化した「放射線診断科」に分け充実を図ったほか、外来診療体制の充実を図るため、脳梗塞・脳梗塞後遺症に対する再生医療の実現に向け、9月に神経再生医療科を新設した。

業務運営においては、引き続きプロパー職員の採用に努めたほか、業務外部委託化を推進し、業務の簡素化、効率化に取り組んだ。

社会貢献としては、引き続き地域医療機関への支援のため医師派遣を行うとともに、初期臨床研修システム、若手医師キャリア形成支援センター等を充実させ、研修・専門医養成・生涯教育を通じて地域医療への貢献に取り組んだ。また、新たに平成23年5月韓国カトリック大学との交流協定を締結し、本学における国際交流活動の場を大きく広げた。さらに、北洋銀行からの全面支援を受け、ラジオ番組「医の力～札幌医科大学 最前線～」(エフエム北海道・AIR-G)を10月から放送開始し、広く本学の教育・研究・診療の最新情報を発信した。

今後も、中期目標の達成に向けて、人的、物的ネットワークを活用し、理念に掲げる最高レベルの医科大学を目指し邁進していくものである。

(2) 計画の主な実績

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

○教養教育・専門教育に係る新カリキュラムの策定

・教養教育

保健医療学部において「生物学」「生命の物理学」を時間増とし、化学についてはより体系的に学べるように「生命の化学1・2」を設定する等、学習内容の充実と学習効果の向上を目的として、平成24年度以降入学者適用の新カリキュラムを策定した。

・専門教育

看護学科において、専門基礎科目では、「生体化学」「病態学」「看護臨床治療論」の教育内容を整理するとともに時間増を図り、看護管理、看護教育、看護政策等の科目を新設し、臨床実習科目を時間増とする等、より科目の充実を図るため、平成24年度以降入学者適用の新カリキュラムを策定した。

○保健医療学研究科の履修環境の整備

e-ラーニングが適当である科目においてその利用を進めることとし、保健医療学研究科共通科目「ヒューマンサイエンス研究法特論演習」及び「スポーツ理学療法学特論演習」において、携帯端末（ipad端末、android携帯端末）を利用した教育、演習環境（e-ラーニングコンテンツ）を整備した。

○助産学専攻科におけるアドミッションポリシーの策定

助産学専攻科の入学受入方針（アドミッションポリシー）を策定し、平成24年度入学受入を実施した。

○医療人育成センターを中心とした両学部共通科目及び単位互換制度の開始

大学を挙げて地域医療への貢献に向けた取組を一層強化し、充実を図るため、新たに両学部及び医療人育成センターの教員による「地域医療合同セミナー等企画・運営委員会」を設置した。委員会では、両学部共通カリキュラムである「地域医療合同セミナー」や「地域密着型チーム医療実習」の企画・評価を行い発展的な改善と安定的な運営に貢献する。

平成23年度より「物理学（医学部）」と「生命の物理学（保健医療学部）」の科目において単位互換を開始した。

○保健医療学研究科における共通講義の活用や科目選択の再編

多様なバックグラウンドをもつ保健医療学研究科の学生の学習に対応すべく、開講科目構成を再編するとともに、履修基準に改め、平成25年度入学生より実施することとした。

あわせて、平成24年度から看護学専攻CNSコースの充実を図るため「精神看護学特論Ⅲ・Ⅳ」を新たに開講した。

○医学研究科における論文表彰制度の創設

教務委員会、3月2回目の研究科委員会までに英文雑誌に受理された論文を対象に優秀論文表彰を実施することを決定し、医学研究科委員会で優秀学位論文選考規程を決定した。3月23日、対象論文から優秀論文1本を決定し、3月30日に表彰式を実施した。

○FD委員会における「e-ラーニングに関する教育セミナー」及び「学生参加の双方向性ワークショップ」の実施

「e-ラーニングに関する教育セミナー」

- ・日時：12月13日 ・講師：千歳科学技術大学教授
- ・議題：「e-ラーニングについて学びましょう」
- ・参加人数：41名

「学生参加の双方向性ワークショップ」

- ・日時：12月6日 ・参加人数34名
- ・内容：講義内容などについて学生から意見を徴収し、改善点について意見交換

○新たな授業評価の実施

平成23年度ベストティーチャー賞表彰の実施に向けて、札幌医科大学教育評価委員会において評価結果の情報提供について検討を行い、表彰を受けた教員からは、授業を行うに当たっての準備や話し方、工夫している点や学生への要望、アドバイス等の情報を収集し、HPで公開すると結論を得た。

これにより、ベストティーチャー賞上位3名にノミネートされた教員をコメントとともにHPで公表し、教員間での優れた授業の共有を図った。

○トランスレーショナルリサーチ事業の推進

文部科学省の補助事業である「橋渡し研究支援推進プログラム『オール北海道先進医学・医療拠点形成』」により設置した北海道臨床開発機構の支援を受けながら、研究を推進した。（事業期間：平成19～23年度）

また、文部科学省で実施された「橋渡し研究支援推進プログラム」の事後評価で良好な結果を得たほか同事業の後継事業である「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」に応募し、本学、北海道大学及び旭川医科大学で、引き続き、同研究に取り組む環境を整えた。（事業期間：平成24～28年度）

○診療支援要請への対応

地域医療機関からの診療支援要請にこたえるため、地域医療支援センターにおいて審議の上、次のとおり医師派遣を行った。

※派遣要請：2040件 派遣実績：1915件 応諾率：93.9%

○公開講座・講演などの積極的な開催、情報発信

北海道の医療・保健の向上や道民の命を守ることを目的に北海道新聞社との間で締結している連携協定「健やか北海道プロジェクト」による公開講座「すこやかライフ講座」を3回開催し、延べ1000人を超える道民の参加があった。

〈開催状況〉

- ・5月20日 島本和明学長
「メタボから身を守ろう～肥満はどうして怖いのか～」
- ・8月18日 神経精神医学講座 齊藤利和教授
「あなたの周りの眠れない人々～不眠と心の科学～」
- ・11月8日 神経内科学講座 下濱俊教授
「認知症～正しい理解と適切な治療・予防～」

○新たな協定大学をはじめとする大学交流の促進

平成23年5月、新たに韓国カトリック大学との交流協定を締結し、臨床実習生の派遣・受入を行った。

また、アルバータ大学への研究者派遣、フィンランドへの研究者派遣・受入、中国医科大学臨床実習学生派遣・受入など、積極的な国際交流を行った。

○診療機能・診療支援機能及び外来診療体制の充実

「放射線科」を、最新機器を用いて治療を行う「放射線治療科」と最新の画像診断機器等による診断に特化した「放射線診断科」に分け、機能の充実を図った。

また、外来診療体制の充実を図るため、脳梗塞・脳梗塞後遺症に対する再生医療の実現に向け、9月に神経再生医療科を新設した。

○高度医療提供体制の整備

高度救命救急センターの機能強化を図ることとし、手術室の環境整備を順次進めることとした。平成23年度においては手術室の増設を実施し、今後も最先端の機能を有するハイブリッド手術室の整備等を進める。

○病院事務局における事務の集中化及び外部委託化

病院経営・管理部を設置し、病院経営に関わる情報を一元的に把握し企画立案できる体制を構築した。また、病棟クラーク業務について、人材派遣により新たに6名配置し、計16名とした。

第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

○プロパー職員の採用・育成

専門的経験を有する者等、12名のプロパー事務職員を採用した。また、年間5回の研修を実施したほか、公立大学協会主催の「公立大学職員セミナー」に3名の職員を参加させ、資質の向上を図った。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

○各種グッズの作成販売

大学のシンボルマークを使用したオリジナルグッズの販売を開始した。(ボールペン、メモ帳、ノート、クリアファイル、ポストカード)

第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

○ラジオ番組の放送開始

北洋銀行からの全面支援を受け、ラジオ番組「医の力～札幌医科大学 最前線～」(エフエム北海道・AIR-G')を10月から放送開始し、疾病予防や健康づくりなどを含め本学の教育・研究・診療の最新情報を広く発信した。分かりやすく情報発信している点などに対し、エフエム北海道番組審議会など各方面から高評価を得ている。

第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

○ESCO事業による省エネの実施

平成22年度から開始したESCO事業による省エネ率は、平成23年度において15%となり、当初目標11%を4ポイント上回る削減効果があった。

第6 決算、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

第7 短期借入金の状況

※平成23年度の計画

①短期借入金の限度額

18億円

②想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。

※平成23年度の実績

該当なし

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

※平成23年度の計画

該当なし

※平成23年度の実績

該当なし

第9 剰余金の使途

※平成23年度の計画

全学的視点に立ち、教育・研究・診療の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

※平成23年度の実績

知事の承認を受けた目的積立金のうち430百万円を教育・研究・診療及び組織運営の質の向上等に充てた。

第10 その他

1 施設及び設備に関する計画

※平成23年度の計画 (単位：百万円)

施設・設備の内容	予定額	財源
施設整備事業費	567	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金

※平成23年度の実績 (単位：百万円)

施設・設備の内容	実績額	財源
施設整備事業費	506	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金

2 人事に関する計画

※平成23年度の計画

業務実績報告書の第2の3「人事の改善に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり

※平成23年度の実績

業務実績報告書の第2の3「人事の改善に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり

3 積立金の使途

※平成23年度の計画

該当なし

※平成23年度の実績

該当なし

区 分	予算額	決算額	差額（決算－予算）	備 考
収入				
運営費交付金	6,228	6,355	127	
施設整備費補助金	567	506	△ 61	
自己収入	22,697	23,219	522	
授業料及び入学金検定料収入	860	846	△ 14	
附属病院収入	20,981	21,285	304	
雑収入	856	1,088	232	
受託研究等収入及び寄附金収入等	942	1,815	873	
長期借入金収入	520	520	0	
目的積立金取崩	541	430	△ 111	
計	31,495	32,845	1,350	
支出				
業務費	29,296	28,974	△ 322	
教育研究経費	2,193	2,281	88	
診療経費	11,311	11,734	423	
人件費	15,315	14,501	△ 814	
一般管理費	477	458	△ 19	
施設整備費	1,087	1,026	△ 61	
受託研究等経費及び寄附金事業費等	708	656	△ 52	
長期借入金償還金	404	405	1	
計	31,495	31,061	△ 434	
収入-支出	0	1,784	1,784	

平成23年度 収支計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
経常費用	30,195	29,583	△ 612	
業務費	28,191	27,444	△ 747	
教育研究経費	1,664	1,786	122	
診療経費	10,890	10,896	6	
受託研究費等	322	261	△ 61	
役員人件費	93	88	△ 5	
教員人件費	4,353	3,963	△ 390	
職員人件費	10,869	10,450	△ 419	
一般管理経費	477	461	△ 16	
財務費用	14	15	1	
減価償却費	1,513	1,663	150	
経常収益	30,139	30,316	177	
運営費交付金収益	6,215	6,110	△ 105	
施設費収益	0	15	15	
授業料収益	760	748	△ 12	
入学金収益	85	82	△ 3	
検定料収益	15	16	1	
附属病院収益	20,981	21,285	304	
受託研究等収益	385	333	△ 52	
寄附金収益	547	513	△ 34	
雑益	790	819	29	
資産見返運営費交付金等戻入	52	65	13	
資産見返寄附金戻入	38	39	1	
資産見返補助金等戻入	82	92	10	
資産見返物品受贈額戻入	189	199	10	
経常損益	△ 56	733	789	
臨時損失	0	2	2	
臨時利益	0	0	0	
純損益	△ 56	731	787	
目的積立金取崩額	56	125	69	
総利益	0	856	856	

(注) 金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。

平成23年度 資金計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
資金支出	31,495	34,751	3,256	
業務活動による支出	29,377	27,759	△ 1,618	
投資活動による支出	1,714	2,098	384	
財務活動による支出	404	1,120	716	
翌年度への繰越金	0	3,774	3,774	
資金収入	31,495	34,751	3,256	
業務活動による収入	30,408	30,130	△ 278	
運営費交付金による収入	6,228	6,207	△ 21	
授業料及び入学金検定料による収入	860	761	△ 99	
附属病院収入	20,981	21,242	261	
受託収入	371	366	△ 5	
寄附金収入	570	671	101	
その他収入	1,398	868	△ 530	
預り科学研究費補助金等増減	0	14	14	
投資活動による収入	567	531	△ 36	
施設費による収入	567	529	△ 38	
その他収入	0	2	2	
財務活動による収入	520	520	0	
前年度よりの繰越金	0	3,570	3,570	

(注)金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。